

フォーミュラリー運用規定（PPI：プロトンポンプ阻害剤）

本院における PPI 製剤の処方においては、原則として以下の基準に従って薬剤を選択する。

【成人の患者】

病院推奨薬	他の選択薬
・ランソプラゾール OD 錠 15mg・30mg* ・ラベプラゾール Na 塩錠 10mg*	・ネキシウム懸濁用顆粒分包 10mg エソメプラゾールカプセル 20mg* ・タケキャブ錠 10mg・20mg** ※ただし、ピロリ菌除菌や再発または難治性の胃食道逆流症例に関しては優先使用とし、消化器内科(初診・共通枠)へ高診を検討する。

【小児の患者】

病院推奨薬	他の選択薬
・ネキシウム懸濁用顆粒分包 10mg エソメプラゾールカプセル 20mg*	

*成分名で記載されている薬剤は後発品

(参考：消化性潰瘍ガイドライン 2020、胃食道逆流症診療ガイドライン 2015)

★各薬剤の適応の比較

薬品名 (一般名)	先/後	適応			
		消化性潰瘍・ 逆流性食道炎	非びらん性 胃食道逆流症	NSAIDs・低用量アス ピリン投与時の 消化性潰瘍再発抑制	H. pyloriの 除菌補助
ランソプラゾールOD錠15mg (ランソプラゾール)	後発	○	○	○	○
ランソプラゾールOD錠30mg (ランソプラゾール)					
ラベプラゾールNa塩錠10mg (ラベプラゾールナトリウム)	後発	○	○	(アスピリンのみ)	○
ネキシウム懸濁用顆粒分包装10mg (エソメプラゾールマグネシウム水和物)	先発	○	○	○	○
エソメプラゾールカプセル20mg (エソメプラゾールマグネシウム水和物)	後発				
タケキャブ錠10mg (ボノプラザンフマル酸塩)	先発	○ (吻合部潰瘍、 ZE症候群なし)		○	○
タケキャブ錠20mg (ボノプラザンフマル酸塩)	先発				

★各薬剤の相互作用の比較

	ランソプラゾール	ラベプラゾール	エソメプラゾール	タケキャブ
併用禁忌薬				
アタザナビル	○	○	○	○
リルピビリン	○	○	○	○
併用注意薬				
テオフィリン	○			
ジアゼパム	○		○	
フェニトイン	○		○	
シロスタゾール			○	
ワルファリン			○	
タクロリムス	○		○	
メトトレキサート	○	○	○	
ジゴキシン	○	○	○	○
メチルジゴキシン	○	○	○	○
イトラコナゾール	○	○	○	○
ゲフィチニブ	○	○	○	○
ニロチニブ			○	○
エルロチニブ			○	○
ネルフィナビル			○	○
ボスチニブ	○			
ポリコナゾール			○	
CYP3A4阻害薬(クラリスロマイシン等)				○
セイヨウオトギリソウ含有食品			○	
水酸化アルミニウムゲル		○		

★薬価・副作用頻度・患者数・使用量の比較

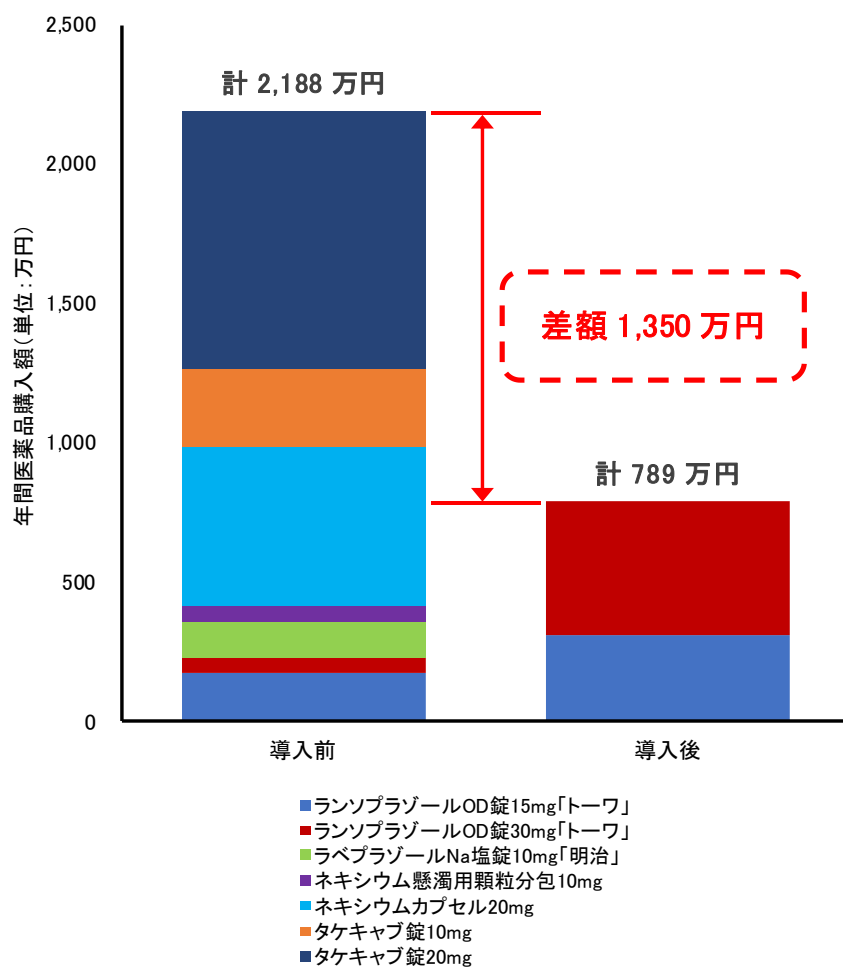
(患者数・使用量集計期間：2020年1月1日～2020年12月31日)

薬品名	先/後	薬価	副作用頻度	患者数 (/年)	使用量 (/年)
ランソプラゾールOD錠15mg「トーワ」	後発	25.1 円	2.2%	1,281人	60,275錠
ランソプラゾールOD錠30mg「トーワ」		43.8 円		277人	11,307錠
ラベプラゾールNa塩錠10mg「明治」	後発	48.3 円	12.1%	349人	28,232錠
ネキシウム懸濁用顆粒分包10mg	先発	78.5 円	11.5%	124人	7,861包
ネキシウムカプセル20mg		116.2 円		714人	42,358Cap
タケキャブ錠10mg	先発	131.4 円	8.2%	551人	23,871錠
タケキャブ錠20mg		197.4 円		781人	43,509錠

※薬価は2021年3月時点での値

★フォーミュラリー導入前と導入後*の医薬品購入額の比較（2021年6月時点）

(*：該当の処方が全て病院推奨薬(ランソプラゾールOD錠)で処方された場合)



《作成・改訂履歴》

- ・ 2021 年 6 月 3 日作成
- ・ 2023 年 6 月 1 日改訂